

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000096		
法人名	社会福祉法人 福寿会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	佐賀県佐賀市諸富町大字諸富津209番地3		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年1月20日	外部評価確定日	平成22年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>馴染みの関係を大切にし、いつも笑顔の中で利用者と職員が楽しく日々送れるような雰囲気作りを心掛けている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の居間からは、筑後川のゆったりとした流れや観光名所にもなっている昇開橋が間近に見られ、夏には、昇開橋で打ち上げられる花火見物が利用者の楽しみにもなっている。事業所の傍には、渡り廊下で繋がる特別養護老人ホームがあり、機能を活かした連携がとられている。職員は、常に、利用者が主体であり、「介護をする」ではなく「介護をさせていただく」という謙虚な気持ちで、利用者の意向を尊重した支援に取り組んでいる。職員間の意思の疎通も図られており、気がかりな事は速やかに相談できる体制にある。</p>
--

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法令に準じた、独自の運営理念を定めている。		地域密着型サービスの役割をふまえた、利用者本位の支援を目指す理念を作り上げている。理念は毎朝の申し送り時に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	現在、母体施設と共同で、働きかけを行なっている。		町の運動会や敬老会には利用者と一緒に参加をし、また文化祭には作品を出品するなどし地域との関わりを持っている。		ともに暮らす地域住民の一員として単発の行事や季節の催し等の関わりだけでなく、普段の暮らしの中で、隣近所の人たちが立ち寄りたり、遊びに来たりする事が出来るような更なる交流への取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人の理解は、少しずつではあるが高まっていると思う。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月に一度運営推進会議を開催し、サービスの向上に努めている。		会議では事業所の運営状況を報告したり、参加者から意見や質問を出してもらっている。		運営推進会議は利用者、家族、地域住民、行政の職員等、幅広い人が参加する会議とし、自己評価や外部評価で明らかになった課題等について、改善経過のモニター役となってもらうなど地域等が運営を見守ったり、協力者として助言するよう
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保険福祉課とおたっしや本舗諸富・蓮池支店と協力関係を築くように取り組んでいる。		町の担当者とは気軽に相談できる関係にあり、折に触れ、事業所の状況を伝えたり、課題解決のための相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については認識しているが、2ユニットで夜勤者が一人の為、やむを得ない場合は家族と十分に話し合い、家族の同意を得る。又、玄関の施錠に関しては、入居時に家族に説明を行い、施錠を行なっている。		職員は拘束の弊害を認識し、拘束のない支援に努めているが、夜間の勤務体制や建物の構造上、各階の階段に続くドア及びエレベーターは、やむを得ず施錠が行われている。家族とは十分に話し合い同意を得ている。安全確保のための施錠については、家族には入居時に説明をし同意を得ている。		利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援するため、今後も鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねられる事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行なわれないように職員間での話し合いをこまめに行い、虐待防止に努めている。				

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度等についての研修を通して知識を広め、気軽に相談をしていただけるような支援を行なっている。				
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に契約書及び重要事項説明書の内容を、利用者及び家族に説明を行い同意を得ている。				
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に話し掛けられる雰囲気作りを心掛けている。 又、玄関に提案箱を設けている。		家族の訪問時には必ず声をかけ、気軽に何でも言ってもらえるように配慮している。出された意見や要望等は職員間で話し合い、速やかに対処している。なお、苦情申し立て機関等についても説明を行い、玄関には提案箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	二ヶ月に一回介護士会議を行い職員の意見や提案を聞いている。 又、緊急時はミーティングを行い意見交換を行なっている。		管理者は日常の業務や会議の中で職員からの意見等を聞き、運営に反映させている。会議では職員からの積極的な意見が出されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	機会のある度に職員との意思の疎通を図り、働きやすい職場作りを心掛けている。				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会への参加を奨励し、研修受講後は職員への報告で周知を図っている。				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・講演会等に参加し、他の施設との交流を持ちサービスの向上に努めている。				

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が何でも気軽に相談出来るような雰囲気作り心掛けている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が何でも気軽に相談出来るような雰囲気作り心掛けている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ家族・本人の希望に耳を傾け、他のサービスも含め検討を行なう。				
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事は出来るだけ手伝ってもらい、お互いの暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。				
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問出来るような雰囲気作り心掛け、家族と共に利用者支援している。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・兄弟の面会の回数を増やしてもらい、また利用者の体調にも合わせ、家族との外出の機会を持ってもらう。			利用者にとっての馴染みの人や場所等を把握し、家族の協力を得ながら関係の継続支援に努めている。面会の少ない家族には電話をしたり、利用者の帰宅願望が強い時には、職員が家へ連れて行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く過ごせる場所を作り、お互い助け合える場面を提供している。				

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここを退去されても、利用者や家族に対しては出来る限りの支援を行なっている。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ本人の希望・要望に合った、その人らしい暮らしが出来るように検討し支援を行なっている。	日常の関わりの中で表情や話から把握し、可能な限り意向に添うように努めている。困難な場合には家族から情報を得、本人本位に検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の生活歴を家族や本人より聞き、サービスに反映出来るように努めている。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の能力に応じた環境を整え、出来るだけ職員は利用者の行動については極力口を出さず、見守りを行なうように努めている。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人との会話、及び家族からの聞き取り等によりアセスメントで実施し、個別の介護計画を作成する。	本人や家族と話し合うと共に職員間で情報交換を行い、本人本位の介護計画を作成している。毎月確認をしながら6ヶ月ごとに定期的な見直しを行っている。なお、状態に変化が生じた場合には随時見直しを行い、現状に応じた介護計画で支援し			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメント表を作成し、又ケース記録として日々の生活状況を記録し、職員間での情報を共有して、介護計画の見直しに生かしている。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じた支援を行なっている。				

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	母体施設を中心に諸機関への働きかけを行い、周知を図っている。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の希望があれば、希望の医療機関への通院・受診の支援を行なう。	利用者は以前からのかかりつけ医を受診されており、家族や医療機関との情報交換も適切に行われている。近隣の医療機関への通院には職員が同行している。			
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の看護師と相談しながら日常の健康管理を行い、必要があれば受診の支援を行なう。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常時、連携体制を取っている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・職員・医師・看護師とで相談しながら、利用者にとって最良の方法を話し合い支援を行なっている。	重度化した場合や終末期の対応はしておらず、協力病院に依頼している。このことは、利用開始時に家族に説明し同意を得ている。なお、利用者の状態に合わせ、段階に応じて再度の説明を行っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、マニュアルに従い手当を行なうようにしている。又、緊急時の対応の研修に参加した職員が後日講習を行い、全ての職員が緊急の手当てが出来るよう実践力を身に付けている。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルに基づき職員に周知している。又、隣接する母体施設の職員の協力も出ている。	職員は年に2回、併設の特別養護老人ホームで行われる消火・避難等の訓練に参加している。しかし、事業所では消防署員からの口頭の指導は受けているものの、昼夜を想定した具体的な避難訓練の実施には至っていない。	事業所での、昼夜を想定した具体的な避難訓練の実施が望まれる。また、職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながらの訓練も期待したい。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けを行なっている。		利用者個々の人格や自尊心に配慮し、ゆっくりと話しかけたり、さり気なく手を差し伸べて支援している。また、職員は「介護をする」ではなく「介護をさせていただく」という謙虚な気持ちでケアに臨んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉掛けにより、本人の希望・要望を聞き対応している。 又、選択の場面を作ったり、本人の希望や自己決定が出来るよう努めている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた対応を心掛けており、入浴・外出等は出来るだけ本人の意思を尊重している。 又、生活全般においても、利用者一人一人のペースに合わせた支援を行なっている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の持参された衣類の中で、本人の希望に添った支援を行なっている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のわずらわしさから開放された環境で、旅行に行ったようなゆっくりつろげる雰囲気味わってもらおうよう、元料亭の板前による食事の提供を行う。 食器の後片付けは職員と共に行なう。	通常は、運営者の意向で採用された調理専門の板前による賄いであるが、毎月1回は利用者と一緒に献立作成や買物、調理等に取り組んでいる。食事の時は職員も一緒に、同じものを食べながらさり気ない支援を行っている。食後は利用者の力量に応じて食器洗いや食器拭き等を一緒に行っている。	食事に関する一連の作業は利用者の力が発揮されやすい場面である。利用者個々の力を活かし、食事作りをおとしたなお一層の支援に期待したい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行い栄養状況を把握し、利用者一人一人に応じた支援を行なっている。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じた、口腔内の清潔保持の支援を行なっている。				

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別による排泄支援を行なっている。		利用者それぞれの排泄パターンや仕草等を把握し、自尊心に配慮しながらトイレでの排泄を支援している。紙おむつや紙パンツ使用からの自立に向けた支援にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の配慮はもちろん、排泄が困難な時はオリゴ糖を使用したり、適度な運動により排泄を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ本人の希望・体調に合わせた入浴を行なっている。		基本的には2、3日置きの入浴であるが、希望があれば毎日の入浴も可能であり、楽しみの場となるように支援している。入浴を拒否される時には、無理強いをせず、時間を変えたり、声かけを工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ昼寝をせずにすむように、散歩やドライブ・娯楽等を行い、夜間安心して眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をバイタルチェック表に掲示し、医師の指示に従い服薬の支援を行なっている。 又、症状の変化の確認にも努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭きや洗濯物干し・洗濯物畳みなどを共に行なう場面を作り、一緒に手伝って頂く。 又、季節の行事等についても入居者に教えてもらい、楽しい雰囲気作りの支援を行なう。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出等は本人の体調を見ながら、出来るだけ意思を尊重し支援を行なっている。 又、普段行けないような場所に関しては、家族や地域の協力を得ながら、出来るだけ本人の希望に沿えるよう支援をしている。		気候の良い時期には日常的に散歩をしたり、花見等でドライブもしている。利用者個々の外出希望時には、家族の協力を得ながら出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニットA) (事業所記入欄)	自己評価(ユニットB) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じた支援を行なう。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自由に通信出来るよう支援を行なっている。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カウンター式の台所に隣接して共同の生活空間があり、談話室の装飾においても、穏やかで家庭的な雰囲気作りに心掛けている。	食堂兼居間は日当たりが良く窓からは筑後川のゆったりとした流れが眺望できる。日差しが強い時にはカーテンや障子で調節し、不快な刺激にならないように配慮している。また、居間にはカウンター越しに台所があり、調理の音や匂いが五感を刺激している。四季折々の伝統行事の際には、行事に合わせた飾りつけをしている。		玄関や廊下について利用者の暮らしに配慮した家庭的雰囲気作りの一層の工夫を期待したい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを設置し、利用者が個々にくつろぎ、利用者同士が親睦を深められるような空間作りを行なっている。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に家族に本人の使い慣れた物品の持ち込みについて十分に説明を行い、居室の環境作りを行なっている。	入居時には、本人の使い慣れた馴染みの物の持ち込みをすすめ、安心できる居室作りを支援している。居室には鏡台や仏壇、趣味の作品、ぬいぐるみ、座布団、テレビ、時計等が見受けられ、時計の位置などには工夫がみられる。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手動・センサー式蛇口など、安全に自立した生活が送れるように心掛けている。				

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない